

# 磐城時報

福島縣石城郡平町番屋町十四  
編輯兼發行所 岡田弘成  
印刷所 加納活版所  
福島縣石城郡平町番屋町十五  
發行所 磐城時報社  
一部金貳圓 一月金拾圓 三月金拾圓  
廣告料一行十四字 諸金五拾錢  
日刊(日曜、祭日)休刊

## 所得稅調查委員 最高點は猪狩氏

### けふ稅務署で選舉會 棄權は一割で六十六名

石城郡に於ける所得稅調查委員の選舉會は二十日午前十時から稅務署樓上で開き立會人佐々木龍若、吉村安次郎兩氏立會の上左の如く當選者決定したが有權者六百六十一名で棄權六十六票、投票總數五百九十五票、無効は絶無であつた。

**正員**  
▲猪狩庄平 平町七六、好間村七、小名濱町九、湯本町七、四倉町六、その他八 計一一三  
▲柏原幸次郎 平町六三、高久六、四倉十一、その他十 計一〇〇  
▲野崎滿藏 平町五五、四倉九、小名濱六、その他十五 計八五

**補充員**  
▲加藤丈夫 平町四九、内郷村一〇、その他二四 計八三  
▲赤津庄兵衛 勿來町二〇、植田町一七、小名濱町九、平町八、その他二四 計七八  
▲赤津修一 勿來町二三、湯本町十六、植田町十三、平町七、その他十三 計七二  
▲阿部唯次郎 平町三九、四倉町十三、その他四 計六〇  
▲補充員 一三三 根本 品藏 一〇〇 叶多 清 九三 本間左源次 七二 成瀬 巴三 六七 小宮山皆吉 四六 荒川渡次郎 三七 馬目 玉彌

## 有段者審査會で 初段二段の昇格者

磐城講道館有段者會では既報の如く十七日午前十時から平町警中道場で有段者昇段の審査會を開いたが、審査員の橋本、青天目兩四段で受審者は初段二十四名、二段十名で免狀を授與されたもの左の如くである。

**▲初段**  
石城郡)志賀滿義、佐々木正康

山野邊久利、齋藤安之助、大平民雄、松本正文、(相馬郡)村岡彦平、岡田明、野本繁、灰野利(双葉郡)松崎正一、渡邊武雄

**▲二段**  
(石城郡)根本久太郎、草野良夫、廣木良夫、林恒男(双葉郡)石川義孝(相馬郡)熊川義長、草野清

## 三代議士を招いて 濱口内閣倒壞の演説

### 平町、植田町の二ヶ所 來る二十四日開催

石城政友會では木村清治氏の中村町相馬中學校コートに於て議會報告演説を兼ね二十四日平町同業東京朝日新聞社寄贈の優勝旗の演説會を開催する事になつたが、辯士として柄木縣選出代倍の猛練習中。あなごり難きは田宗吉の兩氏來平獅子吼する筈で平町は正午から聚樂館に於て植田町は午後三時から菊田座に於て開催する豫定である。

## 武德會参加選手

大日本武德會福島支部主催の郡山武德會新築祝賀會開演式は來月二日開催されるが、當日の催はしとして毎年福島武德會で開催された柔、剣、弓優勝旗爭奪戦を催す由で、郡山署から二十日平町宛に選手参加を勧誘して來たが、一昨年弓道優勝者は平町青木目原一郎君で、平町署では二十五日の締切まで郡内の人選を行ふ。

## 現物維持

### 十七日礦長會で決定

常磐炭礦の二割二分出炭送減に關する協議會は十七日湯本町松柏館に各礦長會同慎重に行つたが、需要期に入りつゝある際でもあり強て急進實施せざるも事實上於て注文がないのであるから今暫らく成行を見上上期日を決し當分現狀維持の一割に踏止尊德翁の命日を期し報德教を印す。

## 稻増收競技會

### 平町 外八ヶ支聯合稻増收競技會は二十三日から三日間各現地で開催したが、郡平均増收は約五分と見られ、これが標準点となる宛の審査員出席し審査する由である。

## 江名理髮業の奉仕

石城郡江名町理髮業者は今回の健康週間に際し小學校全児童の理髮料金を五錢に改め更に又貧困兒童に對しては無料で理髮し料金は全部小學校に寄附し大いに一般から好評をえた。

## 北部體育大會

### 石城 郡北部各町村聯合體育競技並に辯論大會は十七日草野小學校で開催したが、一等大野村、二等四倉町、三等草野村、四等大浦村であつた。

## 海道委員會

### 平上 水道工事セメント及機械の購入委員會は今二十日午後一時から平町役場に開催された。

## 相馬支局通信

### 相馬 郡内教員庭球大會は來る廿六日高久病院に入院加療中であるが大會を擧行する。

## 車川の架橋

### 昨春洪 水にて流失した相馬郡上眞野村車川の縣道に架す大橋は今月中旬町米倉平松氏請負にて愈々工事着手したが、工費一萬圓、竣工は明年三月末日の豫定。

## 奇特な老人

### 相馬郡 鹿島町黒澤芳三郎(六三)は豫て公共事業等に對しては率先して寄附其他の應援に當つてゐるが今回健康週間中は特に早朝より起出して先づ下水の掃除や道直しに老の身を忘れて働いた、こゝろの行爲には何れも感謝してうした行爲には何れも感謝してあるが、中村署でも何ん等かの方法で右老人を表彰したいと目下考究中である。

## 自動車の體檢

### 相馬郡 相馬郡原町、双葉郡浪江、富岡町性源寺で佛式により執行する。

## 二宮神社祭典

### 相馬 郡三警察署管内自動車々體檢は、相馬郡原町、双葉郡浪江、富岡町性源寺で佛式により執行する。

## 泥酔乘客を救ふため 湯本驛で重傷を負ふ

常磐線湯本驛に於て十七日午後仲々の重傷である、同人の今回九時二十分頃上野、富岡間の下の災難には非常に一般から同情り旅客列車が發車せんとした刹に泥酔した旅客が飛び降りんとしたのを同驛手内郷村大字織藤末次(三〇)は危険を冒して救助したが、自分も同列車のため四倉町では十一月三日體育デー左右の足に重傷を負ひ目下平町に同町小學校で町民の陸上競技場に入院加療中であるが大會を擧行する。

## 四倉町民 體育競技

四倉町では十一月三日體育デーに於て同町民の陸上競技大会を開催する。

## 前借を詐取

### 石城郡 郡加納村飲食店雨宮フサ方に長野縣西筑前郡櫛川村と住所を偽はつて前借四百二十五圓で酌婦に住み込んだが、二十日間で前借を踏倒して逃走したので平町署に告訴された。

## 篠塚氏逝く

### 平町 四丁目魚問屋三國屋篠塚長吉氏は十六日發病十九日午前十一時二十七分死亡した、葬儀は二十一日午後一時自宅出棺平町長橋町性源寺で佛式により執行する。

## 三井家の不幸

### 平町 字二丁目三井常松氏は永らく病氣中の處十九日午後二時死亡、葬儀は二十三日午後二時自宅出棺神式により平町古銀治町天理教墓地に於て執行する。

## 平町人事

出生 平町三丁目鐵道員立原豊吉二女スミ、平町一丁目二〇神奈川縣横濱市通中村町唐八圖書館員長女扶佐子  
婚姻 平町銀治町飲食店石森茂夫(二四)宮城縣根白石村根白石町熊谷チサヨ(二二)  
死亡 平町福宜町茨城縣多賀三浦形村戸井田留雄(二七)

時報文藝

(和歌)

寂寥 大平松夫

楠の木にからまり咲ける葛の花のうら枯れにつゝ秋さりにけり

つれづれのまゝに出で來し友の家にひとの噂をきけばかなし

幼子を背負ひて若き吾が友は遊戯する兒を見せをりたり

黄も赤も入亂れつゝコスモスは秋雨のなかにきほひ咲き居

枝豆は早うれ熟れておのづから畔に散り居り秋の眞晝間

さくさくき吾が來し覺音にふと止みしこぼるきは又啼出でに免

石神の嶺にし立ては眼路はるか石城の海が陽に光る見ゆ

(吾が生家は溪谷のほとりなりしかば)

山國に住みざる故か吾が詠める歌はおほかた山の歌なり

(俳句) 秋風

へも胡瓜まだついてあり秋の風

秋風や夕日をうけしちぎれ雲

鴉去つて野面静かや秋の風

秋風や竹林深く灯る家

大南瓜一つあらはや秋の風

高原の白日を吹く秋の風

硝子の細秋風をきえてるし

蒼天の秋風を見て栗拾ふ

ほの／＼とゆらぐまこもや秋の風

秋風にゆらぐともなく穂草哉 病患や心切なる風の秋 同 露こぼす垣のぬかごや秋の風 外 秋風やすぐに崩るゝ雲の峯 同 枇杷の葉に明けし大蛾や秋の風 同 コスモスに誇る揚翅や風の秋 同

逢ふは別れの初めさか 兄妹さしての交際は 紅葉の散る如く 今は別れる運命が 吾等に襲ひ來たのだ 人妻となるお前は 別れねならぬ 悲しき僕の胸の裡を 察してもう一度僕を 兄さんと呼んで呉れ妹よ！ 况はしき世の人の 無理解が禍して 僕等を別れさせてしまふのだ だが！永遠に生ある間 二人の心は離まい兄妹として

債券、公債、兩替金融

多田井質店

平町大工町 (電話五九一番)

専門内科一般

内科ハ何デモ診療致します 呼吸器病バカリデアアリマセン

平町南町六五改(電話一八一番)

川井内科診療所

醫學士 川井重子 女醫 川井安子

耳鼻咽喉科専門

應入院 合津醫院 電話五五九番

首より上の

化粧品と器具

理髪店用バリカンと剃刀 安全の刃と器械及び皮砥 白衣と鏡取揃えてあります 經濟のクリーム・ポマード ハカリ賣 フケ取香水・純椿油

芳香園理髮器具店 電話六八〇番

スポーツの秋

各種運動具！ 嶄新で・軽快で・スマートな 秋向アンダー・スエター 及び各種運動服装 尖端的感覺百パーセント

自製靴 斷然値下げ 大塚支店 製靴部 運動具部 電話七七番

黒小倉學生服

今年ウーンと安くなりました 型も新しく一裁縫も丈夫に 皆様にホメて頂ける自信ある 冬服を……澤山揃いました。

特製品 小學生用 2.00 特製品 中學生用 3.00

なかや洋服店 平二 電203

父辰吉儀十月十六日俄然發病治療不相叶 今十九日午前十一時二十七分死去致候 玆に謹んで御通知申上候 追て本月二十一日午後二時自宅出棺菩提寺小島山 性源寺に於て佛式執行可仕候 時節柄造花供物等御遠慮申上候 昭和五年十月十九日

親戚總代 男 篠塚平八郎 高野吉太郎 坂本直吉 阿部源造 柴田七介 諸橋國松 柏原幸次 友人總代 諸橋國松

父常松儀豫て病氣の處樂石効無 十九日午後十時死去致候間御通知に代へ此段謹告仕候 追而葬儀は二十二日午後二時自宅出棺神式により 天理教墓地に於て執行仕候 昭和五年十月二十日

嗣子 三井文吉 親戚一同

高久病院

醫學士 高久忠 新瀉醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄 内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

印刷物は……加納活版所